

つくいじょうあと

津久井城跡

(相模原市城山町No.8遺跡)

調査期間 20060201～20071015

所在地 相模原市城山町小倉
字馬込

時代 旧石器
縄文
中・近世



更新日:20071114

概要

本調査は、津久井土木事務所及び国土交通省による津久井広域道路整備事業に伴い事前に行われた埋蔵文化財調査です。

調査区A区とB・D区の間は、江戸時代から屋敷地と畑地の境にあたり、地下ム口が設けられていました。地下ム口は、縦横約2.5m×深さ1.5m程の部屋が4つ連結されていました。地下ム口の用途は不明ですが、中央の部屋には火を焚いた痕が残され、周りの部屋の壁には棚板を固定したと思われる穴がみられました。

縄文時代の調査では、早期の落とし穴と思われる土坑が、

現在では完全に埋もれてしまった^{まいぼつだに}埋没谷の底からおよそ40基発見されました。

関東ローム層とよばれる赤土の調査では、旧石器時代の石器が多数出土しました。ローム層下最深約3.5mまで掘り下げた結果、概ね5時期に残された石器群の存在が確認されました。

B区とした南半部の調査区では、B0層(約1万5千年前)の地層から僅かながら石器が出土しました。江戸時代以降の土地利用により、石器の多くは失われていましたが、



▲B区 江戸時代の地下ム口



▲A区 縄文時代谷部土坑出土状況

さいせきじん こくようせき
細石刃とよばれる、黒曜石製の石器が発見されま
した。

A区の最下層の石器群は、B4層とよばれるおよそ3万年以
前と考えられる地層から発見されました。多数の剥片が出

土しており、^{きよくぶませいせきふ}局部磨製石斧とよばれる石器の製作址
であった可能性が考えられます。石器の多くは、地元の河床

^{こうしつさいりゅうぎょうかいがん}で採取可能な硬質細粒凝灰岩やホルンフェ
ルスと呼ばれる石材が使用されていますが、黒曜石や水晶
など地元では採取できない石材も存在しました。石器に伴っ

^{れきぐん}て、礫群と呼ばれる焼けた礫が集中する遺構も発見され
ました。



▲A区 北端B3～B4層石器出土状況